平成２４年度第１回山内図書館利用者フォーラム　会議録

１．日　時　　平成２４年７月５日（木）　１３：００～１５：００

２．場　所　　山内図書館集会室

３．出席者　　利用者フォーラムメンバー
千葉委員(代表)、管野委員、大西委員、立石(正)委員、小野寺委員、
岡嶋委員、立石(朝)委員、下田委員

事務局
内田グループ統括、荻野主任(有隣堂本部)
浜田館長、能川副館長、釜田主任

４．案　件　（１）平成２３年度事業報告及び平成２４年度事業計画について
（２）指定管理者の評価について
（３）その他

５．概　要　（１）平成２３年度事業報告及び平成２４年度事業計画について
（浜田館長説明）

①横浜市山内図書館平成２３年度事業報告書、横浜市山内図書館２４年度事業計画書の説明

②質疑応答・意見

Q. 団体貸出の資料費は上がらないのか？

A. 例年と同じくらいと思われる。

Q. 教職員に対して研修等は行っているか？ 先生の学校図書館に対する理解に個人差があると感じている。選書の助力になるような単元に合わせたリストの配布などもあれば、役立つと思う。

A. 教職員に向けた研修等の指導を直接行うのは教育委員会の役割で、市立図書館はその立場にないと考えている。ただ、公共図書館として講座を開き、興味のある先生に参加を呼びかけるという形での事業は考えている。今年度は平日夜間に図書館で修理講座を実施する予定。
また、市内教職員向けサービスに「セット貸出」というテーマや単元に合わせた本をまとめて貸出するサービスもある。山内図書館独自の事業としては、教職員に向けた調べ学習に役立つ本等の展示を本部(有隣堂)と連携して行った。興味ある先生は参加するが、多くはないのが現状。今後は忙しい先生方にどう PR

していくかが課題。

Q. 団体貸出の現状は？

A. 少ない予算の枠でも要望に沿えるよう選書はしているが、電算データで蔵書管理をしていないので、蔵書構成が把握しづらく運用が難しい。登録団体は増加し、地域文庫だけでなく保育園、高齢者福祉施設などニーズも多様化している。寄贈本を受け入れる等の工夫をして、蔵書の幅を広げている。

Q. 自主企画の「イクメン講演会」は盛況だったようだが、広報の方法は？

A. ポスター・チラシの館内掲示、ホームページ、広報あおば等への掲載だけでなく、企画内容に合わせ、区内保育園・幼稚園等にスポットを当て広報した。

Q. 児童登録者数の増加率が都筑図書館に比べて少ないようだが、対策をとっているか？

A. 「夏のおはなしまつり」などの児童向けの事業は、参加をきっかけに登録に結びつけたいという意図を持って実施している。

Q. 20 後半～30 代（働き盛り）は、忙しくて書店や図書館に足を運べないため、インターネットで購入する人も多いと思う。そのほうが読みたいときにすぐ手に入る。足を運ばなくてもいい有料宅配サービスを若い世代にもっと PR したらどうか？

A. 有料宅配サービスは、来館が困難な高齢者等を想定して始めたサービスだが、実際は子育て世代の利用が多い。

忙しい人への利便性・迅速性という面では、アマゾンなどのネット通販と図書館はそもそもの機能・性質が異なる。新刊やベストセラー本は予約が多数あり読みたいときにすぐ手に入るわけではない。

Q. 近年、サピエ図書館のデイジー図書データのインターネット配信が普及し、視覚障害者への資料提供の利便性が上がっているが、対面朗読サービスの利用者は減っていないか？

A. 指定管理に移行してからは定期的に利用している利用者は１名で、変化はない。

・昨年度、学校連携スタッフに小学校図書室を訪問してもらって除架指導をしていただいた。感謝している。

・団貸資料費が少ない件については、サポーターズクラブ等が主催して寄贈本を募るという活動等もできるかもしれない。

・小学校のカリキュラムで図書館見学の機会があれば、利用登録するきっかけになるが、機会がないまま進級・進学している児童も多い。そういう児童の掘り起こしもしてほしい。

・若い世代は読みたい本によって、書店での購入と図書館での貸出をうまく使い分けていると感じる。

（2）指定管理者の評価について

①横浜市山内図書館利用者フォーラム委員用アンケート資料に対する質疑応答、意見

Q. 地域の古い写真等のデジタルアーカイブ化を進める話があったと思うが、状況はどうか？

A. 今年度は35周年記念展示「山内図書館のあゆみ」に合わせてデジタルコンテンツの構築も進めていきたい。また、郷土資料のパスファインダー作りも行う予定。

Q. 学校連携について、青葉区の各学校の状況を把握して要望を中央図書館に挙げるというやり方はしているのか。

A. 事業の方針としては、教員（またはボランティア）から相談を受けたことに対して市立図書館としてアドバイスをするという形を取っている。区内の学校数の多さからも、まんべんなく一定のサービスを提供するためには細かいところまでは手が届きにくいのが現状。23年度は、各校の運営カルテ作成を始めた。このカルテの結果をもとに中央図書館に何が提言できるかが課題。

・Web版の「青葉区いろはカルタ」はよくできている。

・デジタルアーカイブ等で昔の街並みと今の街並みを対比する資料を作る際には、あおばみんのメディアチームが協力できる。

・限られた職員数で数多くの事業を展開していて大変な作業だと感じた。

・23年度の企画事業の参加人数を見ると、地域の人に「図書館はいつも何か(事業)をやっているところ」という認識を持ってもらえてきているのではないか。

・学校も山内図書館からの情報発信拠点となり、マーケットとなりうる。

・平成23年度利用統計を見ると、都筑と差があるように見えるが、都筑区は市内で一番人口増加率が高いことや、青葉区の取次サービスでの貸出冊数を加味した方が、正当な評価を受ける資料となる。

・5年間の蓄積を次期管理者に繋げていけるかどうか、業務の継続性がカバーできるかどうかが課題。

・来館したことのない市民の新規開拓をするならば、図書館だより等の広報物を図書館や地区センター以外の場所に配布すべき。各自治体の回覧板に挟んでもらう等の方法もあるのではないか。

（３）その他

①次回は 11 月以降に開催予定。

６．配布資料　会議次第、「横浜市山内図書館平成２３年度事業報告書」、平成２３年度利用統計、「横浜市山内図書館平成２４年度事業計画書」、横浜市山内図書館利用者フォーラム委員用アンケート資料、山内図書館夏の催しものちらし

以上